

議会だより

にしあいづ No.146

2019.7.31
(令和元年)

発行：福島県西会津町議会
編集：広報広聴常任委員会



- 6月定例会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～3
- ここが聞きたい！ 一般質問 7人が登壇・・・・・・・・ 4～11
- 臨時会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 新体制がスタート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 町民と議会との懇談会開催報告・・・・・・・・・・ 14～15
- 議会の動き・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

やっぱりプールっていいね！（西会津小プール授業）



国民健康保険税条例の一部改正

国保運営基金から減税財源400万円を投入

国民健康保険
被保険者証

有効期限 年 月 日

記号 番号

氏 名

生 年 月 日 年 月 日 性 別

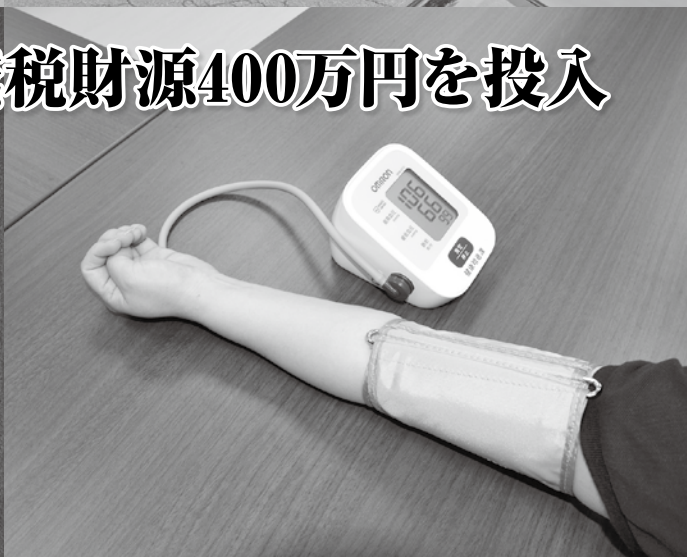
交付年月日 年 月 日

世帯主氏名

住所

保険者番号 交付者名

妊産婦及び18歳までの一部負担金の割合は0割



町から提出された議案は、条例の一部改正や令和元年度補正予算、工事請負契約の変更契約、財産の取得、人事案件など9件で、全て原案のとおり可決・同意しました。
一般質問では7人が登壇し、町の考えや対応を問いました。

みんなの健康と診療

地方税法の一部改正お

よび令和元年度分に係る
税率の改正に伴い、町国
民健康保険税条例の一部
を改正しました。

運営主体の県から示さ
れた「保険給付費実績及
び令和元年の保険給付費
内示額」を基に、減税財
源として国保運営基金か
ら400万円を充て、税
率の変動幅を抑制するも
のとなりました。

主な質疑

多賀剛議員
軽減措置が令和6年度
で終了するが、終了後、
本町の健康づくりなどの
取り組みはどのようにな
るのか。

国 保 税 率

区 分		令和元年度	平成30年度
医療分	所得割	6.72%	6.13%
	均等割	23,000円	21,400円
	平等割	17,200円	17,000円
支援分	所得割	2.91%	2.60%
	均等割	10,000円	9,100円
	平等割	7,600円	7,000円
介護分	所得割	2.76%	2.34%
	均等割	11,600円	10,600円
	平等割	6,000円	5,600円

健康増進課長

県からは、令和6年度
から医療費水準の統一が
示される見込みであり、
保険料率と金額の統一は
その後になるが時期につ
いては不明である。
健康づくりの各市町村

の取り組みについて、国
では、保険者努力支援制
度交付金（インセンティ
ブ交付金）があり今後も
引き続き強化するとのこ
とである。
なお現在、本町の評価
ポイントは高い方である。

一般会計補正予算(第2次)の主なもの

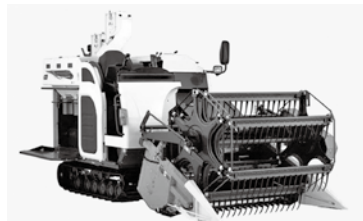
消費税引き上げに伴う プレミアム付商品券事業補助金

対象者：低所得者・子育て世帯
(5千円×1,600人分)
手続き：対象者全員に交付申請書を送付

950万円

菜食健美ふくしま!地域特産物活用補助金

事業主体：上野尻営農組合
対象事業：エゴマ用コンバイン導入



281万2千円

過疎地域等集落ネットワーク圏 形成支援事業補助金

事業主体：西会津観光交流協会
対象事業：会津大山門前町にぎわい復活事業



750万円

コミュニティ育成補助金

- ・上野尻自治区祭礼用太鼓修繕
(宝くじ社会貢献事業) 180万円
- ・黒沢・向原・下小島自治区集会所修繕等
(町単独事業) 80万4千円

260万4千円

主な質疑

小柴敬議員

プレミアム付商品券の
対象者数・一人当たりの
購入額・プレミアム率は、

商工観光課長

低所得者・子育て世帯
を対象として全体で16
00人を見込んでいる。

一人当たりの販売額は
2万円、額面としては
2万5千円となり、プレ
ミア率としては25パーセ
ントとなる(5千円部
分)。

長谷川義雄議員

歳入の過疎地域等自立
活性化推進交付金はその
ような事業に向けられる
のか。

企画情報課長

歳出で過疎地域等集落
ネットワーク圏形成支援

今回の一般会計補正予
算(第2次)では、歳入
歳出それぞれ4226万
2千円を増額し、予算総
額を61億2226万2千
円としました。

教育委員会委員の
任命に同意

単年度事業で、事業の
内容は、大久保地区で空
き家を利用した特産品販
売所兼飲食スペース整備
や雷山公園の花木の植栽
ポータルサイト構築、エ
リア内のWiFi環境
の整備などである。

退職により欠員となっ
ている教育委員に、高橋
誠さん(柴崎)を任命す
ることに同意。

採択した陳情

「令和2年度及び復
興・創生期間後も、国
の『被災児童生徒就学
支援等事業』の継続と
被災児童生徒の十分な
就学支援を求める意見
書」の提出を求める陳
情書

猪俣常三議員

コミュニティ育成補助
金260万4千円の内容
は。

総務課長

宝くじ社会貢献事業で、
上野尻自治区太鼓修繕1
80万円が採択となつた
ものである。

町の単独費での補助事

業は黒沢自治区の公民館
サッシ取り付け64万円。
向原自治区集会所トイレ
改修8万円。下小島自治
区集会所の屋根塗装8万
4千円となっている。

提出した意見書

「令和2年度及び復興・
創生期間後も、国の
『被災児童生徒就学支
援等事業』の継続と被
災児童生徒の十分な就
学支援を求める意見書
■新たな過疎対策法の制
定に関する意見書

定に関する意見書

町政を問う

ここが聞きたい 7名が登壇



質問順序
 ・三留 満 議員
 ・秦 貞継 議員
 ・薄 幸一 議員
 ・小柴 敬 議員
 ・多賀 剛 議員
 ・青木照夫 議員
 ・清野佐一 議員

一般質問は6月10日から11日までの2日間で行い、議員7名が登壇して町政の課題などを問いました。

一般質問とは

一般質問とは、議員が町の事務の執行状況や将来の方向性について報告や説明を求め、町民のための適切な行政運営が進められているかをチェックするものです。

事前の通告に基づき質問

質問者は、議長の許可を得て事前に執行者に通告した内容に沿って質問することができます。

1時間以内なら何度でも質問可能

論点及び争点を明確にし、議論が深まるよう一問一答方式を採用しており、答弁を含めて1時間の時間内であれば何回でも質問することができます。

○清野佐一議員（5ページ）

- ①観光振興について
- ②子育て支援策について
- ③鳥獣被害対策について

○青木照夫議員（6ページ）

- ①交流人口拡大について

○多賀剛議員（7ページ）

- ①「協働のまちづくり」の推進について
- ②西会津インターチェンジ（I C）でのETC2.0の活用推進について
- ③通学路・教育施設の安全管理体制について

○小柴敬議員（8ページ）

- ①森林資源利活用について
- ②小規模多機能型居宅介護施設について

○三留満議員（9ページ）

- ①旧尾野本小学校講堂利活用と中心エリア整備構想について

○秦貞継議員（10ページ）

- ①町内の有害鳥獣対策について
- ②町内への誘客イベントについて

○薄幸一議員（11ページ）

- ①高齢者の住みやすい町づくりにについて
- ②飯豊山の魅力発信について

※掲載ページは抽選による。

※掲載記事は2項目まで。



議員
清野佐一

観光振興

問 誘客増加への戦略は

答 観光資源の磨き上げを図る

問 町には、大山祇神社という観光名所があるが、

が基礎データとなっていない。また、誘客増加への戦略はどのように考えているか。

これらを中心とした観光客の動向は、どのように捉えているか、また誘客増加への戦略はどのように考えているか。

商工観光課長

町内観光客の動向については、本町主要観光施設である大山祇神社、

ロータスイン、道の駅にしあいづの来客数、および主要イベントである西会津ふるさとまつり、西会津雪国まつりの来場者

が基礎データとなっていない。また、誘客増加への戦略はどのように考えているか。

福島県観光客入込状況調査によると、平成30年の観光客入込数は、約77万3600人で前年より1万人、率にして1・4パーセントの増となった。

誘客増加への戦略については、にしあいづ観光交流協会や地域おこし団体、民間事業者と連携し協力していく。

また、大山祇神社や鳥追観音などの観光資源はもちろん、本町の歴史や伝統、生活習慣や豊かな自然なども貴重な観光資源と捉え、より魅力的に磨き上げ、それらを活用した体験・滞在型観光を推進していくことで観光客の増加を目指す。

また、観光案内ガイドの養成や農家民宿の育成などの受入体制の強化、ホームページや他のWeb媒体などを活用して情報発信をしていく。

そして、極上の会津プロジェクト協議会や霊地観光協議会、阿賀町などと広域的な連携を進め、誘客拡大を図っていく。

問 国では10月から保育料を無料化するとされている。現在、無料化している本町にとっては負担の軽減が見込まれるが、さらに新たな支援策を考えているかどうか。

問 新たな子育て支援策を

答 策定作業を進めている

子育て支援

町長

本町では、国の制度に先行し、平成30年度から全ての利用者の保育料を無料化している。

また、妊娠・出産・育児・保育・教育の各ステージで、こうのとりサポート事業、出産祝金や乳幼児家庭子育て応援金などの町単独による子育て支援策を実施している。保育料無料化による新たな支援策については、現在、今年度中の策定に向けて作業を進めている。「子ども・子育て支援事業計画（第2期）」のための、利用ニーズ調査のアンケート調査などを踏まえ検討していく。

なお、国の無料化により軽減される町の財政負担分については、町全体の予算の中で調整していく。



子育て支援の拠点施設（認定こゆりこども園）

問 交流人口拡大の取り組みは

答 地域資源の活用を検討する



議員
青木照夫

少子高齢化に伴う人口減少は、地方自治体の共通課題である。知恵を出し、政策を提案し、実現にどう結び付けるのか伺う。

問 西会津町には研幾堂という宝があるが、光を当てることで、交流人口の拡大や、経済効果が生まれると思うがどうか。

商工観光課長

今後、策定される中心エリア整備構想の中で、観光誘客の視点から、研幾堂を含めた、地域資源の活用を検討する。

その結果を踏まえ、交流人口の拡大、経済の活性化に向け取り組む。

問 西会津応援大使として、6名が委嘱されたが、町の期待も大きい。今後町の活性化にどのような応援を頂けるのか。

町長

西会津応援大使は、本町の豊かな歴史、文化、芸術、スポーツ、観光などを発信していただく。

また、交流人口、定住人口の増加に資する活動を行い、企業誘致に関する情報など、町の活性化につながる提案などをしていただくことを目的に委嘱している。

今後産業、経済、観光、芸術などのあらゆる分野で適任者を随時委嘱し、本町の魅力を積極的にPRしていただくとともに、少子高齢化、人口減少が大きな課題の中、活気ある町づくりに情報の提供や協力をしていただく。

問 野沢は越後街道の宿場町として栄えた歴史がある。景観条例などを制定し、思い切つてまちなか再生に取り組めないか。

企画情報課長

今年度から、公共施設の集約や歩いて暮らせるまちづくり、商店街の活性化、観光誘客など総合的な視点で、野沢・尾野本エリアの将来像を描く「中心エリア整備構想」の策定に取り組むこととしている。

その検討の中で、景観条例などの制定の必要性を調査・研究する。



現在の野沢まちなか通り



議員
多賀 剛

児童生徒の安全

問 安全管理体制は

答 連携・見守り体制を強化する

問 川崎市登戸の路上において、スクールバスを待っていた小学生らの集団に、刃物を持った男が近づき、次々と殺傷する大変悲惨な事件が発生した。

学校教育課長

こういった事件が発生するたびに、本町の通学路・教育施設は大丈夫なのか、危機管理体制は十分なのか大変心配するところである。

今回のような非日常的なケースに遭遇した場合、どのように対応しよう

としているのか。児童・生徒にはどのような防犯・防災教育をしているのか。また、事件後どのような対策をとったか。

事件後、危機管理体制を見直し、「危機管理対応マニュアル」を作成した。小・中学校では、日常生活の中に潜む危険を予測し、常に安全を確認し、正しい判断の下に安全に行動できる能力を養うこと、さらに、生命を尊重し、安全に関して理解を深めて生活できるように安全教育を実施している。

今後、地域全体での児童生徒の見守り体制の確立に努めていく。

問 協働のまちづくりはできているか

答 今後も再確認しながら進める

問 「まちづくり基本条例」では、まちづくりの主役は町民であるとしている。

町民一人ひとりが積極的にまちづくりに参画し、町民・議会・執行機関は、

それぞれ役割を果たし、相互に補完・協力しながら協働のまちづくりを進めるものとしている。はたして今、協働の町づくりができていくのか。

また「まちづくり基本条例」を作ったときの思いは継承されているのか。町民の参画意識を高めるためには何が必要と考えるか。

町長

各種施策を進めるうえで、一定程度その機能、役割は果たしているもの

と認識している。少子高齢化が進む中、町・議会・町民が条例に謳われたそれぞれの役割と責務を再認識する必要があると感じている。

そのためには、町民の皆さんにまちづくりに関心を持っていただくことが重要であり、いろいろな仕組みを利用しながら、一人でも多くの町民に町の政策に目を向けていただくよう取り組んでいく。



策定当時を振り返り、さらなる協働のまちづくりを

介護施設

問 小規模多機能型居宅介護施設の状況は

答 町長の公約でもあり実現に向けて取り組む



議員

小柴 敬

問 開所予定地域における利用者等の人数は、どの程度把握しているのか。

町長

小規模多機能型居宅介護施設の整備については、自分の公約でもあり「国民年金で生活されている高齢者が安心して利用できる福祉施設の整備」の実現に取り組むものである。

開所予定地となっている奥川地区において、在宅で生活しながら各種サービスを利用している方は、5月1日現在42名である。

問 施設で必要となる管理者、看護職員、介護支援専門員、介護職員などの要請については、どのように考えているのか。

町長

町独自の人材確保対策として、介護人材の養成

を目的とした「介護職員初任者研修事業」と、将来的な人材確保に向けた「トータルケア修学資金貸与事業」を今後も継続して実施するとともに、必要に応じて新たな人材確保を検討していく。

問 開所後の維持管理についての考えを伺う。

町長

今後、西会津町地域ケア推進会議や、町内にある事業所から意見をいただきながら、具体的な運営形態を決定していく。

問 現在、他の施設を利用している方でも、希望すれば入所可能か。

介護福祉課長

当然可能である。ケアマネージャーなど利用計画を立てるなど相談して欲しい。

森林資源活用

問 バイオマス供給施設建設の可能性は

答 採算ラインに必要な需要が必要

問 会津13市町村におけるバイオマスボイラーなどの整備状況は。

農林振興課長

平成30年度までに熱ボイラーを導入する計画だったが、現時点で導入完了しているのは本町のみであり、喜多方市、会津美里町、北塩原村の3市町村が導入に向けた調査を実施した。

問 バイオマス燃料供給施設建設の可能性は。

農林振興課長

施設整備の採算ラインに必要な需給量は、木質ペレットで現状の2・3倍、オガ粉が約3・7倍必要である。

具体的にはペレットで600トン、オガ粉で



森林資源活用のため林業専用道の早期完成を
(奥川杉山地区)

1800立方メートルの需要がなければ、建設の見込みが立てられない。工事については約75メートルであり、間もなく完成予定である。

問 林業専用道の完成見込みはいつ頃になるのか。

農林振興課長

平成30年度に着工した

現状を見ると、計画期間の延長をせざるを得ない。



議員

三留 満

旧尾野本小講堂

問 講堂保存・利活用の現状調査は

答 補正予算で対応する

広報にしあいづ4月号の町長コラムで、旧尾野本小学校講堂保存・利活用について思いや考えを述べられていることから次の点を伺う。

問 コラムの文面からは、講堂の保存・利活用の方針を明確に示したと解釈するが。

企画情報課長

音楽イベントで講堂を利用しての団体関係者からの要望を踏まえ、今後その利活用の可能性に

ついて調査・検討することにしており、現段階では明確な方針を示していない。

問 議会や町民の理解を得て進めるためには、現状調査を進め保存・改修の費用や課題を明らかにすべきと考えるが、調査の予定は。

企画情報課長

現状の年数回程度のイベントであれば、その都度消防署への届出で利用可能なので、大規模改修などを計画する差し迫った状況にはないと考えている。

問 主催団体では、今後コンサートなどの利用回数を増やしていく計画と聞いている。トイレの問題や本格的な安全対策が示されないまま、イベントが先行することや、避難場所に指定されていることを考えると、早期に具体的な対応や方針を示すべきと考えるが。

企画情報課長

避難場所としては、災害時の緊急の一時避難場所の位置付けであることから、今後の講堂の利活用の可能性を見極めて判断する。

問 講堂の保存・利活用が既存方針であるならば、中心エリア整備構想と切り離して、周辺整備構想を早期にまとめる考えは。

企画情報課長

旧尾野本小学校周辺は、こども園や小・中学校に近く、交通の利便性もよく重要なエリアであるので、中心エリア整備構想の中で総合的に検討する。

問 現状調査を早期にすべきと考えるが。

町長

本年度中に補正予算を組んで調査する。



調査の上、利活用方針の決定を

有害鳥獣対策

問 今後の取り組みは

答 被害防止・捕獲活動の向上に努める

議員
秦 貞継

先日開催された町民と議会との懇談会において、地区住民から有害鳥獣による被害への対応について相談があった。

町の課題でもある有害鳥獣被害防止に対する町の考えを問う。

問 現在までの町内の有害鳥獣被害の状況はどのようなになっているか。

農林振興課長

直近の3年平均被害額では、ニホンザルが326万9千円で被害は横ばい、ツキノワグマが23万2千円で被害は2〜3年ごとに変化、イノシシが122万円で年々被害は増加している。

問 これまでの有害鳥獣被害防止の対策と成果および課題はどのようなものか。

農林振興課長

平成30年度に専門員を配置し、鳥獣被害防止の総合的な対策と集落支援に取り組んできた。これにより重点的に対策を講じた地区では被害の減少ならびに捕獲実績の向上がみられた。

一方、猟友会の高齢化が進み、ワナの設置や見回り、捕獲活動における負担軽減が課題となっている。

問 さらなる有害鳥獣被害防止に向けた取り組みは考えているか。

農林振興課長

有害鳥獣の行動調査にICTを活用し、被害防止と捕獲活動の向上に努める。また、追い払いや電気柵の講習会について実施地区の拡大と、これまで開催した集落へのフォローアップを行っていく。

交流人口拡大

問 今後の展望は

答 適宜見直しを図る

問 これまでの町内誘客イベントの成果と課題はどのようなものか。

商工観光課長

町内では、5月に開催された「なつかしCarショー」をはじめ、年間を通して多くの集客があるイベントが開催されている。

また、町内の自治区や地域団体主催のイベントも数多くあり、町ではそれらの点在するイベントを線でつなぐ「わくわくイベントスタンプラリー」を実施し、交流人口の拡大を図っている。

問 さらなる交流人口拡大に向けた考えはどのようなものか。

商工観光課長

イベントの適宜見直しを図り、体験型イベントなどを取り入れることにより、交流人口及び関係人口の増加につながるものと考えている。



賑わいを見せた「なつかしCarショー」



議員
薄 幸一

飯豊山活用

問 飯豊登山による町活性化は

答 豊かな自然をPRする

問 飯豊山登山道入口の町として、登山客を呼び込む対策を町はどのように考えているか。

商工観光課長

飯豊山は、日本百名山の一つに数えられる名峰である。特徴として、亜高山帯に見られる針葉樹林がほとんどなく、貴重なブナ林があり、夏場は固有種の高山植物が咲き誇るなど、豊かな自然が残る山である。

進め、登山者の増加を図っていきたい。

問 極入自治区から祓川駐車場までの道幅が狭く、すれ違いが困難な箇所も多くあり、道路の拡張整備が必要と思われるが、町の考えは。

商工観光課長

極入から弥平四郎に至る県道熱塩加納・山都・西会津線については、会津北部地域の活性化と産業振興を図る上で重要な路線である。

このことから、喜多方市とともに整備促進期成同盟会を設立し、道路の狭い部分の拡張、線形改良を毎年、県に要望している。

弥平四郎から祓川駐車場に至る町道弥平四郎山荘線は、国有林内を通る路線であることや磐梯朝日国立公園内を通る路線であることから、さまざまな制限があり、現在のところ拡張などは予定していない。

問 高齢者の一人暮らしが増えており、困ったときに誰に相談したらいいのかわからないとき、誰でも相談できる部署を役場内に設置する考えはないか。

問 困ったときに誰に相談したらいいか

答 役場の福祉介護課に相談を

福祉介護課長

高齢者一人暮らし世帯は、町内全世帯の4分の1に当たる659世帯と増加傾向にある。

身近な窓口としては、民生委員・児童委員の皆さんが、担当する地区で生活に関する相談や必要に応じて関係機関へ取り次ぎを行っている。

また、保健・福祉・医療・介護などの総合相談窓口として、地域包括支援センターがあり、専門

知識を持った職員が、福祉や介護、日常生活に関わる相談・支援を行っている。

さらに、町社会福祉協議会で行っている心配ごと相談所では、月2回相談日を設け、相談内容により、町内外の専門機関への取り次ぎなどを行っている。

町としては、各種相談窓口と連携する役場内の高齢者相談窓口を「福祉介護課」としている。



困ったときの相談窓口「福祉介護課」

第3回議会臨時会

専決処分の承認と補正予算を承認・可決

5月21日に議会臨時会が招集されました。町側から専決処分の承認2件と一般会計補正予算1件の議案が提出され、全ての議案を原案のとおり承認・可決しました。

専決処分の承認

■町税条例等の一部を改正する条例の専決処分の承認

地方税法の一部を改正する法律が3月29日に公布され、4月1日から施行されたことに伴い、町税条例等を専決処分により一部改正。

■平成30年度一般会計補正予算（第7次）の専決処分の承認

3月議会定例会終了後に特別交付税の額が決定されたことに伴い、1億4531万1千円を増額し、予算総額を65億5547万2千円とする補正予算を専決処分により調製。

補正予算

■令和元年度一般会計補正予算（第1次）

3月に発生した、小杉山地区の地すべり対策に係る経費を新規計上。

5千万円を増額し、予算総額を60億8千万円とする。

内訳は、地すべり対策に係る測量設計委託料が、3千万円、災害復旧工事業、2千万円。

第5回議会臨時会

改選後初議会 議会構成が決定

7月10日に議会臨時会が招集されました。改選に伴う議長や副議長、喜多方地方広域市町村圏組合議会議員について、立候補による議会内の選挙を実施し、それぞれ選出しました。

議長 清野 佐一
副議長 伊藤 一男

総務常任委員会（6名）

委員長 秦 貞継
副委員長 多賀 剛
委員 武藤 道廣
猪俣 常三
上野恵美子
清野 佐一

【所管事務】

総務課、企画情報課、町民税務課、福祉介護課、健康増進課、出納室、教育委員会、監査委員、選挙管理委員会

経済常任委員会（6名）

委員長 小柴 敬
副委員長 三留 正義
委員 青木 照夫
小林 雅弘
荒海 正人
伊藤 一男

【所管事務】

商工観光課、農林振興課、建設水道課、農業委員会

広報広聴常任委員会（11名）

委員長 武藤 道廣
副委員長 伊藤 一男
※議長を除く議員で構成。

【所管事務】

分科会の構成は、16ページをご覧ください。
議会の広報広聴

議会運営委員会（6名）

委員長 多賀 剛
副委員長 猪俣 常三
委員 青木 照夫
小柴 敬
三留 正義
秦 貞継

【主な内容】

会期日程、議事日程など議会運営に関する事項や会議規則・委員会条例などの協議。

喜多方地方広域市町村圏組合議会議員

清野 佐一
多賀 剛
※本町議2名、喜多方市議6名、北塩原村議1名で構成。任期は4年。

審議された議案

町から2件の議案が提出され、原案のとおり可決・同意しました。

■防災・安全交付金事業
町道野沢中央線（新町橋）橋梁補修工事請負契約の変更契約

現在進めている新町橋の補修工事において、構造上あるべき胸壁（パラペット）がなかったことから、代わりに重力式擁壁を設置する必要が生じたことによる変更契約。
429万840円を増額し、工事請負額を6664万1400円とする。

監査委員の選任同意

議会から選任される監査委員を、武藤道廣議員とすることに同意。

新体制がスタート!!

議長に清野佐一議員 副議長に伊藤一男議員

議長

11番

清野 佐一

(下小島・6期)



副議長

8番

伊藤 一男

(下野尻・3期)



1番

荒海 正人

(小綱木・1期)



2番

上野 恵美子

(4町内・1期)



3番

小林 雅弘

(上野尻・1期)



4番

秦 貞継

(萱本・2期)



5番

猪俣 常三

(道目・3期)



6番

三留 正義

(6町内・3期)



7番

小柴 敬

(4町内・3期)



9番

多賀 剛

(10町内・4期)



10番

青木 照夫

(9町内・5期)



12番

武藤 道廣

(新町・7期)



町民と議会との懇談会開催報告

(第12回議会報告会)

5月7日から9日にかけて町内9会場で町民と議会の懇談会を開催しました。
延べ90人に参加をいただき、活発な意見交換が行われました。

主な質問・回答

若者向け住宅整備

問 空き家もあるのに整備する必要があるのか。

答 町内企業ニーズ調査の結果、勤務する町外者30数名の方が野沢地区に若者向け住宅があれば住みたいとの報告があった。

問 町営住宅や教員住宅は空いていないのか。

答 緊急避難のため一部空けているが、ほとんど空いていない。

問 町内に仕事があれば移住定住も不可能では。

答 町内企業の要望に応ずる形で住宅整備を実施するものである。

企業誘致の努力はしているが労働人口が不足している現状では難しい。

有害鳥獣対策

問 イノシシ被害が大きくなっている。特に稲作やのり面への被害が大きく、夜行性のため個人で

の対応は難しい。

答 町民へのわなの資格取得の周知を行うよう要望する。町の大きな問題として提言する。

問 パトロールの効果は出ているのか。

答 一定の効果は出ているが、一層の強化が望まれる。

問 昨年のイノシシの捕獲頭数、捕獲金額を上げた理由、空気銃の購入数は。

答 数十頭捕獲している。金額は他町村との格差は正のためである。

空気銃は一丁で、わなにかかったイノシシなどを止め刺す際に、跳弾の危険性が低い。

問 猟友会の服を見るとサルは逃げていくので、

猟友会の服を半額で購入できないか。

答 服を見れば逃げていくのであれば、そんな方法も検討が必要。

小規模多機能型居宅介護施設

問 建設場所は。

答 今回は奥川地区に計画している。

問 ヘルパーの確保はどのように計画しているのか。また、外国人との関係は。

答 昨年度も介護職員の養成講座を開催し、6人の受講があった。

外国人については、ベトナムとの交流を進めているが、詳細については説明がなされていない。

問 評判がよければ増設するの。

答 町の次期計画でどう考えるかだが、すぐには難しい。

西高活性化対策

問 西高だけでなく、他の高校に通う学生に対しても奨学金などの補助があってもいいのではないか。

答 2年連続で入学定員

割れがあり、西高存続が危ぶまれたため、町と議会が西高に特化した政策をとったためである。

ふるさと納税

問 目標より少ないが増やす方法は。

答 3月末で1千万円以上になっている。他町村では数億円集めているところもあり、3千万円の目標設定は高額ではないと思う。

過度な返礼品競争に対し、総務省から返礼品を地元産品で3割に抑えるよう通達があり、多少乗り遅れた状況である。

問 どのようなPRをしているのか。

答 インターネットポータルサイトへの掲載や返礼品の見直し、首都圏・在京西会津会などに向けチラシの配布なども行っている。

◆議会報告会開催実績◆

- 5月7日(火) 交流物産館「よりっせ」(13人)、森野集会所(10人)、西林集会所(12人)
- 5月8日(水) 保健センター(8人)、熊沢集会所(13人) 原集会所(9人)
- 5月9日(木) 滝坂集会所(7人)、奥川みらい交流館(8人) 極入集会所(10人)



町に申し入れ

次の要望は、町に申入れすることとしました。

■役場庁内での情報共有をしっかりとしてほしい。
(同じ課内で、直近の情報に分からない職員がいた。)



情報共有方法の再構築を

常任委員会で調査

次の要望は、経済常任委員会で調査することとしました。

■屋敷地区の水道の管理を自治区で行っているが、町管理にしてみえないか。

懇談テーマ「空き家対策について」

問 大雪で潰れそうな空き家があり、事故などがあっても補償がない。

答 危険家屋や財産放棄など、所有者との調整の必要があり、すぐ対応できない。

指導、勧告、代執行と順を追って進めているが時間がかかる状況にある。

問 空き家になったらすぐに情報公開する必要があるのでは。

答 使用できる家屋と危険家屋の調査をしっかりと、専門部署をつくって対応することも必要ではないか。

問 空き家の住める・住めない・中間などを調査し、住めるところは有効活用して欲しい。

答 有効活用できる空き家とそうでない物件、それぞれ違った対応・対策が必要である。

問 町が代執行して行っただことは。

答 代執行までやったことはまだない。個人の財産であるため指導から代執行まで時間がかかる。

問 空き家バンクはあるのか。

答 登録してくれる人が少ない状況である。

リフォームしてまで貸したい人は少ないようで、専門的にコーディネートする人や人員が必要。

問 隣接する空き家のため、冬期間の雪処理に苦労している。役場の担当者に対応してくれたが、なかなか進展が見られない。

答 空き家は個人財産であるため、取り壊しの代執行がなかなかできない。相続放棄しても、管理義務はなくなる。

尾野本地区で、所有者の事情でなかなか解体が

進まなかったが、親族の念書をとって危険性がな

いように取り壊しのみを行

ったことがある。
町内には危険家屋が多くあり、喫緊の課題である。事故が起こる前に対応が必要、倒壊した場合は持ち主の責任。

その他の意見等

・空き家を利用してもらおうとしたら、トイレが古いため利用してもらえなかった。

・空き家などに関する判断材料が少ない。「西会津町定住促進事業(回覧文書)」については各個配布していたきたい。

・空き家に関して、町が詳細に現状を把握する必要がある。空き家になる前にもう少し早く対処できないのか。

ご意見・ご要望を町に申し入れ

議会報告会で町民の皆さんから寄せられたご意見やご要望を、議会運営委員会および全員協議会で協議しました。

その結果、役場庁内での情報共有について、新庁舎となり各課が個室となったことから、情報共有方法の再構築を町に対して要望することとしました。

6月12日の議会定例会閉会后に、武藤議長、青木副議長と議会運営委員会の清野委員長、荒海副委員長が工藤副町長に内容を説明し、申し入れました。



議会の動き

県町村議会議長会から 2人の議員が表彰

6月3日に開催された福島県町村議会議長会定期総会において、清野佐一議員（写真右）が議員として20年以上在職



した功労により特別功勞者表彰を、多賀剛議員（写真左）が議会議員として11年以上在籍した功勞により、自治功勞者表彰を受賞しました。

6月7日の議会定例会開会日に武藤議長から2人に表彰状が伝達されました。

広報広聴常任 委員会を設置

今期の改選から、新たに広報広聴常任委員会が設置されました。

議会だよりの編集だけでなく、一般会議や議会報告会を常任委員会の活動として、体制の充実・強化と議会活動の活性化を図ることが目的です。

広報広聴常任委員会は、2つの分科会に分かれており、広聴分科会は一般会議や議会報告会などを、広報分科会は議会だよりの編集などを担当します。このことから、これまでは議会広報特別委員会で議会だよりの編集を行ってきましたが、今後は広報分科会が編集作業を行います。

委員会構成

○広聴分科会（5名）

分科会長 武藤 道廣
（常任委員会委員長）
副分科会長 多賀 剛
委員 青木 照夫
委員 三留 正義
委員 秦 貞継

○広報分科会（6名）

分科会長 伊藤 一男
（常任委員会副委員長）
副分科会長 猪俣 常三
委員 小柴 敬
委員 小林 雅弘
委員 上野恵美子
委員 荒海 正人



私たちが編集します（広報分科会）

編集後記

議員改選後、初めての議会だよりの発行となり、新人議員3名を含め新編集委員6名体制でのスタートとなりました。前号までの広報委員の皆さん、長い間ご苦勞様でした。

何分、初めての編集委員が多く先行不安ではありますが、新人議員の斬新なアイデアや新鮮な感覚に期待し、町民の皆さんにこれまで以上に親しまれ、読んでいただける紙面づくりに努めていきますので、よろしく願います。

伊藤 一男

編集委員（広報分科会）

分科会長 伊藤 一男
副分科会長 猪俣 常三
委員 小柴 敬
委員 小林 雅弘
委員 上野恵美子
委員 荒海 正人

にしあいづ議会だより

No. 146

発行 福島県西会津町議会
編集 広報広聴常任委員会

〒969-4495 福島県耶麻郡西会津町野沢
字下小屋上乙3308 0241(45)4537
e-mail gikaie@town.nishiaizu.fukushima.jp